

令和6年度 生涯教育研修会カリキュラム

基：基本研修
実：実務研修

公益社団法人 山梨県栄養士会 (2024.4.25)

日時	オンデマンド 配信期間 (予定)	講演・ 演習	番号は、基・実別の 項目番号、 ()内：認定分野別 名、太字は当日の 担当職域事業部	演題および講師	ご講演の内容	
6月16日 (日) 山梨 市民会館	10:00~ 11:30	6月28日 (金) ~ 7月15日 (月)	①講 実務 25-102 (学・公・地・福)	減塩指導の必要性 山梨大学大学院総合研究部医学域 腎臓内科学 教授 中島 歩 氏	栄養調査で塩分摂取量ワースト1を争うほどの塩分過多である山梨県。そのためか、糖尿病性腎症が多く、山梨県も減塩に力を入れています。マンネリ化が課題となっています。腎臓内科学の専門家であり、減塩の重要性を誰よりも理解して下さっている中島先生に、長期にわたる減塩活動にさらなるパワーをいただくようなご講演をいただきます。	
7月20日 (土) びゅあ総合 中研修室	10:00~ 11:30	8月9日 (金) ~ 8月26日 (月)	①講 実務 47-104 (公・地・給)	特定保健指導の質の向上に向けて 女子栄養大学 特任教授 津下一代 氏 ※会場集合型ZOOMライブ研修	令和6年度より第4期特定検診・特定保健指導の新たなプログラムがスタート。今まで以上に指導の成果が求められる中、第4期の保健指導のポイントや視点をご講演いただきます。	
	昼休み		*賛助会員展示(商品紹介)商社名：調整中			
	12:30~ 14:00		②講 実務 21-105 (学・ス・公・地・福)	運動・スポーツの食事と栄養 山梨学院短期大学 食物栄養科 専任講師 鈴木睦代 氏	運動・スポーツをする人は、個人の身体活動量や競技環境などに合わせて、食事や栄養補給を考える必要があります。栄養サポートのご経験をふまえ、学校や生涯スポーツなどの場面における栄養管理の基本についてご講演いただきます。	
14:15~ 15:45	③講 実務 71-101 (福・臨・公・地)	質的研究とは？ 学校法人 市邨学園 名古屋経済大学 人間生活科学部 特任教授 全学教育推進センター長 大谷尚 氏	普段行っている栄養の指導は、量的研究の成果に基づいて実施されることが多いと思います。しかし、クライアント個人の気持ち、意識、希望などは量的・客観的に扱うことが難しく、質的研究の考え方が必要となります。質的研究の目的、活用場面、量的研究との違い、分析や解釈の方法などについて、管理栄養士・栄養士が学ぶべき視点を取り入れながら、ご講演いただきます。			
8月24日 (土) びゅあ総合 小研修室 (1)	10:00~ 11:30	9月13日 (金) ~ 9月30日 (月)	①講 実務 23-101 (臨・福・地・公・ス・給)	肝臓病の栄養治療の最新知見 医療法人秀和会 秀和総合病院 消化器内科部長 鈴木孝知 氏	肝臓疾患の治療には、肝機能の状態によって食事療法のポイントが異なります。管理栄養士がそれぞれの現場にて、多職種連携でどのようなことができるのか、肝臓疾患の治療について、最新の知見を交えてご講演いただきます。	
	昼休み		*賛助会員展示(商品紹介)商社名：調整中			
	12:30~ 14:00		②講 実務 71-101 (全分野共通)	疫学研究から探る、人々の健やかな成長のために 私たちができること 山梨大学大学院 総合研究部医学域 社会医学講座 教授 山縣然太郎 氏	ヒトの長期的な健康に関する科学的根拠の多くは、コホート研究をはじめとした疫学研究の知見の集積によるものであり、それら多数の研究レビューをふまえて「日本人の食事摂取基準」等の各種ガイドラインが策定されています。そのため、食に関わる専門職としてEBNを実践していくためには、疫学の理解が必要不可欠といえます。本研修会では、これまでに数多くの疫学研究に携わられており、学術論文も多数執筆されている山縣先生からご講演をいただく中で、疫学の学びを深め、より適切に科学的根拠に基づいた業務や情報発信ができるようになることを目的としています。	
14:15~ 15:45	③講 実務 23-102 (臨・福・地・公・ス・給)	糖尿病のしくみ丸わかり！ 患者と栄養相談する前に自分自身が実践したいツボ いけだ糖尿病・甲状腺クリニック 院長 池田真人 氏	糖尿病の人に何がおきているのかイメージできるように解説します。目先の血糖値にとらわれない、ポケずに長生きするため、栄養相談する前に知っておくべき代謝のツボとマインドフルネスの重要性についてお話します。			
10月5日 (土) 山梨学院 短期大学 サザンタ ワー4階	10:00~ 11:30	10月25日 (金) ~ 11月11日 (月)	①講 実務 47-104 (公・地・給)	ナッジ理論と食行動変容 女子栄養大学 准教授 林美美 氏 ※会場集合型ZOOMライブ研修	ナッジとは、「人々を強制することなく、望ましい行動に誘導するようなシグナルまたは、仕組み」などと定義され、健康分野で注目されています。健康に関心がない人、関心はあるけれど行動に移せない人も含め、すべての人々が自然と行動変容でき、健康的な食生活を送るための一つの手法として、食行動や食生活支援の取り組みにナッジを応用するためのヒントや好事例について講演いただきます。	
	昼休み		*賛助会員展示(商品紹介)商社名：大塚製薬株式会社			
	12:30~ 14:00		②講 実務 23-101 (臨・福・地・公・ス・給)	腸から整えるカラダとココロ 株式会社ヤクルト本社 広報室 参事 小笠原伸浩 氏 ※会場開催のみとなります。(後日のオンデマンド配信はありませので、ご注意ください。)	腸内フローラという言葉が一般的になってから、腸内フローラバランスにより、免疫機能や睡眠の質の改善、短鎖脂肪酸との関係など、多くの情報を目にします。腸内フローラと健康や食生活との関係性など、最新の知見をわかりやすくご講演いただきます。	
14:15~ 15:45	③講 実務 61-101 (臨・福・公・地・学・ス・給)	福祉施設・病院における給食BCPについて お茶の水女子大学基幹研究院 自然科学系 公衆栄養学研究室 教授 須藤紀子 氏	近年、災害が続く日本。山梨県でもいつ大きな災害に巻き込まれるか予測できません。たとえ災害が発生しても、病院や福祉施設等の給食施設は入所者に限らず、避難してくる被災者にも給食を提供しなければならないなど、被災したからといって給食を休止できません。その中で、どのように給食を継続していくのか、事例をあげながら、給食BCPの進め方やポイント、対応等をわかりやすく講演いただきます。			
12月14日 (土) 未定	10:00~ 11:30	2025年 1月10日 (金) ~ 1月27日 (月)	①講 実務 21-110 (公)	おいしい減塩食 ~かるしおプロジェクト~ 国立循環器病研究センター 上級研究員 竹本小百合 氏 ※会場集合型ZOOMライブ研修	かるしおとは、国立循環器病研究センター(国循)が推奨する「塩をかるく使って美味しさを引き出す」減塩の新しい考え方です(HPより)。病院での「おいしい減塩食」やそのノウハウを活かした地域での取り組みについて講演いただきます。給食調理でのポイントや患者さんや一般の方に無理なく減塩に取り組んでいただくためのヒントをいただきます。	
	昼休み		*賛助会員展示(商品紹介)商社名：調整中			
	12:30~ 14:00		②演習 実務 23-218 (福高・障・児・臨・学)	ライフステージに沿った、食事と運動するからだの動き、 使い方 峡北シルバークアホーム 理学療法士 竹中悠 氏	子どもから成長期、青年期、生産年齢期、高齢期、全てのライフステージごとのからだの使い方や特性、それに沿った食事動作とはどのようなものなのか、これを知ると様々な食事時の悩みが解決の方向へ向かっていきます。食事形態、嗜好など対応しても摂取が進まない方などを「摂取時の体勢」という視点からご講演いただきます。	
14:15~ 15:45	③講 基本 7-1 (全分野共通)	研究方法・研究発表 ~日常の管理栄養士・栄養士業務を適切にまとめて 学会発表を行う手順~ 公益社団法人 山梨県栄養士会 会長 平井美樹夫 氏	学会発表は、管理栄養士・栄養士が日頃の業務や研究の成果を公表することにより、他者から評価を受け、科学的な妥当性を検討するためだけでなく、他者の発表を聞いたり、自らの業務を改善したり、自らの研究に応用する機会、経験を身に付ける場です。しかしながら、未経験者にとっては、日頃の業務内容をまとめる、それを発表するということがハードルの高いこととらえてしまい、なかなか挑戦が難しく感じます。今回は、そのためのコツをご講演いただきます。			
2025年 2月1日 (土) 未定	10:00~ 11:30	2025年 2月21日 (金) ~ 3月10日 (月)	①講 実務 90-110 (全分野共通)	認定管理栄養士・認定栄養士 認定制度について ~知識・技術・倫理の面で信頼できる専門職としての キャリアデザイン~ 公益社団法人 山梨県栄養士会 会長 平井美樹夫 氏	管理栄養士・栄養士は科学の進歩と社会の変化に的確に対応するために、常にスキルの向上を図り、専門職としての能力の習熟が求められます。そこで、キャリアを支援できる制度として、認定制度があります。内容を知り、自分自身のキャリアデザインを設計してみたいかがでしょうか。	
	昼休み		*賛助会員展示(商品紹介)商社名：株式会社ナリコマエータープライズ			
	12:30~ 14:00		②講 実務 71-101 (全分野共通)	食と栄養に関する科学的根拠を積み上げていくためには、科学的な検討をもとに開発された質問票等を用いてデータを収集し、分析、検討を進めていく必要があります。そこで、「日本版一般栄養知識調査票(JGNKQ)」を開発された松本先生より、質問票の作成過程や、質問票を用いた研究事例等についてご講演いただくことで、栄養学研究的知識を深め、より適切に、科学的根拠に基づいた業務や情報発信ができるようになることを目的としています。		
14:15~ 15:45	③講 基本 7-1 (全分野共通)	研究方法・研究発表 ~日常の管理栄養士・栄養士業務を適切にまとめて 学会発表を行う手順~ 公益社団法人 山梨県栄養士会 会長 平井美樹夫 氏	学会発表は、管理栄養士・栄養士が日頃の業務や研究の成果を公表することにより、他者から評価を受け、科学的な妥当性を検討するためだけでなく、他者の発表を聞いたり、自らの業務を改善したり、自らの研究に応用する機会、経験を身に付ける場です。しかしながら、未経験者にとっては、日頃の業務内容をまとめる、それを発表するということがハードルの高いこととらえてしまい、なかなか挑戦が難しく感じます。今回は、そのためのコツをご講演いただきます。			

分野別：臨床 R、学校 G、健康・スポーツ KS、給食管理 K、公衆 P、地域 T、福祉(高齢者・障がい者) FS、福祉(児童) FG の各栄養分野

生涯教育の構成：生涯教育は、「栄養の指導」の専門職として各領域で必須とされるスキルを習得する基幹教育と、専門とする分野ごとさらにその専門性を高める拡充教育があります。基幹教育は、専門知識・技術の習得と実践力をつけ、対象者の状況に関わらず一人ひとりに応じた適切な「栄養の指導」ができることを目指し、基本研修と実務研修に分かれています。基本研修は、管理栄養士・栄養士としてのミニマムスタンダード(守られるべき最低限の基準。最低水準)を身につけることを目的としています。(日本栄養士会が実施しているe-learning研修をご活用ください。)

実務研修は、専門とする分野に特化される知識と技術を習得することを目的としています。(対面又はWebで学習します)

基本研修30(うち必須単位20)単位、実務研修30(臨床栄養分野は40)単位受講すると、認定試験の受験資格が得られ、これに合格すると専門分野別の〇〇認定管理栄養士・〇〇認定栄養士として認定されます。**この制度は、熟練した栄養に関する技術と知識を用いて、「栄養の指導」について責任をもって実践できるレベルに到達した事を日本栄養士会が認めるものです。**

拡充教育は、専門領域の特定の分野におけるさらに高度で詳細な専門知識・技術、学術(教育・研究スキル)を向上させるものとして位置づけられています。拡充教育は特定分野の研修とマネージメントリーダー研修、専門研修に分けられていますが、今後のさらなる発展を検討中です。

まずは、受講してみましょう。スタッフ・受講者はみんな同じ仲間です。教え・教えられるながら、少しずつスキルを上げていきましょう。